令和８年７月26日（日）尾西生涯学習センターにて「第８回 出前実験授業 くすり教室一宮2026」を開催。

共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）・一般社団法人 一宮市薬剤師会・一宮市教育委員会

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、地域の方々や学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Ｅプロ）の活動として今年度３回目の活動を行いました。

一宮市薬剤師会会長 小川勝人先生、理事 原 明美先生、一宮市長 中野正康様および一宮市教育委員会教育長 高橋信哉先生のご尽力により、令和８年 ７ 月 26日（日）、尾西生涯学習センターにおいて「第８回 出前実験授業 くすり教室一宮 2026」が開催されました。本教室では、昨年度に引き続き、下記の内容を企画するとともに、教材や実験器具の準備を行いました。

午前中には名城大学薬学部の野田幸裕教授および薬学生（大学院生１名、Ｅプロ所属学部生５年生４名）が、一宮市薬剤師会の37名（薬剤師３１人・薬学実務実習生６人）を対象に講義内容や実験手順についての説明をしました。午後からは、小学生 3～6 年生 116 名が参加し、「くすり」をテーマとした講義や体験実験を通じて、薬の正しい使い方や役割について学びました。参加した児童からは、「もっといろいろな実験をやってみたい」「薬の種類や作り方について知りたい」などの感想が寄せられ、薬への関心や理解を深める貴重な機会であったと思います。

尾西生涯学習センターにおける「くすり教室」

日時：令和８年７月26日（日）　14時00分～16時00分
場所：尾西生涯学習センター6階大ホール
内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A 方式

くすりをどのように使用したら効率よく効果が現れ、副作用を防ぐことができるか、児童参加型の Q&A 方式で行いました。一宮市薬剤師会理事の野々垣秀宣先生がスライドを使用してわかりやすく説明し、小学生が元気よく挙手して活発に問いかけに答えてくれました。

・「手洗い体験」

休憩時間には希望者を募り、野田幸裕教授、薬学生の補助・解説のもと、正しい手洗いを学ぶ体験コーナーを実施しました。予想を上回る多くの小学生が参加し、まずローションで手に付着した汚れをブラックライトで確認した後、実際に手洗いを行い、再びブラックライトで付着した汚れが落ちているかどうかを確認してもらい、洗い残しやすい部分を視覚的に確認することで、正しい手洗い方法を楽しみながら学んでもらうことができました。

・「体験実験」

小学生は、24班（1班4～6名）に分かれ、一宮市薬剤師会の薬剤師、野田幸裕教授および薬学生の補助・解説を受けながら、体験実験に取組みました。実験では実際に手を動かしながら薬や健康について学ぶことで理解を深めることができ、「うがい薬の色が一気に変わって驚いた」「水無しで飲める薬があることに驚いた」などの感想が寄せられ、参加した小学生から大変好評をいただきました。

＜実験項目＞

1．コップ１杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ
2．水がなくても飲める薬があるのを知ってる？
3．「くすり」を「お茶」で飲むとどうなってしまうの？
4．「うがいぐすり」でうがいした後に、



制作：名城大学薬学部病態解析学Ⅰ（加古摩耶、加納正暉、野田幸裕）
監修：NPO J-DO









すっぱい食品を食べるとどうなってしまうの？